

資源管理効果向上調査

資源管理部 研究員 中武凌一
部長 森島義明

目的

マチ類資源管理効果の向上と関係漁船漁業者の漁家経営の安定化に資するため、マチ類資源回復に影響を及ぼすサメ種を特定するとともに、サメ類の有効利用を図るための鮮度保持・加工技術を検討する。

釣獲試験

- ・方法: 令和元～3年に漁業調査船「くろしお」による釣獲試験を種子島東沖(田之脇曾根周辺)で実施
試験操業はアオダイを餌料に用いた延縄漁具を使用
- ・結果: 3年間の試験操業においてイタチザメ19尾, ヨシキリザメ1尾を漁獲
マチ類がサメによる食害を受けることを確認
イタチザメが食害の主な原因となっていることを確認
- ・今後, 食害の回避に向け, 保護区内に生息するサメ(主にイタチザメ)の生態と食害発生条件を明らかにする必要がある。

表1 漁獲されたサメの測定結果

操業日	魚種	全長 (cm)	尾叉長 (cm)	体重 (kg)	性別	胃内容物重量 (kg)	胃内容物
R1. 8. 22	イタチザメ	334	272	255	♂	7.4	小型のサメ, 硬骨魚
R1. 8. 22	イタチザメ	323	260	184	♂	0.1	硬骨魚
R1. 8. 22	イタチザメ	335	276	232	♂	—	—
R1. 8. 22	ヨシキリザメ	296	245	103	♂	—	—
R1. 8. 23	イタチザメ	145	114	15.8	♀	—	巻貝
R1. 8. 23	イタチザメ	340	297	291	♀	—	—
R1. 8. 23	イタチザメ	330	290	272	♂	9.5	ウミガメ
R2. 9. 15	イタチザメ	130	110	14.8	♀	0.5	餌(アオダイ), 硬骨魚
R2. 9. 15	イタチザメ	354	300	244.9	♂	10	ウミガメ, 鳥類
R2. 9. 15	イタチザメ	160	122	27	♀	—	—
R2. 9. 15	イタチザメ	300	255	177	♀	6	鳥類
R2. 9. 16	イタチザメ	299	250	150	♂	—	—
R2. 9. 16	イタチザメ	398	350	473	♀	2.9	餌(アオダイ), 硬骨魚
R2. 9. 16	イタチザメ	291	237	146	♂	—	—
R2. 9. 17	イタチザメ	300	235	146	♂	—	—
R3. 8. 19	イタチザメ	360	330	395	♀	20.4	ウミガメ
R3. 8. 20	イタチザメ	185	145	35	♂	—	餌(アオダイ)
R3. 8. 20	イタチザメ	175	143	32	♀	—	餌(アオダイ), 魚類
R3. 8. 21	イタチザメ	150	125	17.2	♀	—	—
R3. 8. 21	イタチザメ	323	296	323	♂	35	餌(アオダイ多数), イタチザメ

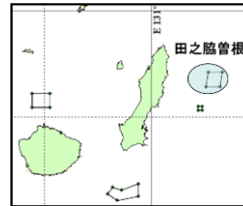


図1 操業海域



図2 胃内容物(アオダイ)



図3 イタチザメ(左)とヨシキリザメ(右)

イタチザメの鮮度試験

イタチザメの皮の鞣製を試み, 漁獲直後の保存方法の違いによる革の引張強さを比較した。

- ・保存方法: 「漁獲後冷凍」, 「漁獲後27°C海水5時間浸漬後冷凍」の2つの方法を比較
- ・鞣製: タンニン鞣し(ミモザ)
- ・結果: 引張強さ 7.8~11.5N/mm²(牛市販ヌメ革14.9N/mm²)
保存方法の違いによる引張強さの有意差なし(T test P<0.05)

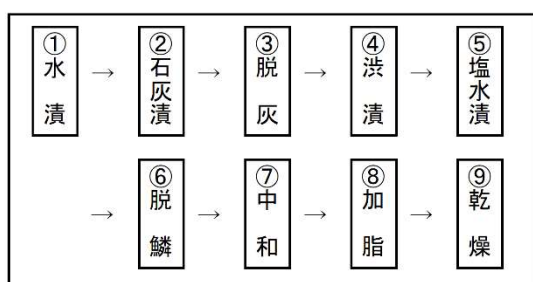


図4 鞣製工程



図5 洗漬前



図6 乾燥後